

# 民学コラボレーション2010年度 発表会

明治大学情報コミュニケーション学部問題発見演習

主催: SH情報文化研究会・気株式会社オッコセイ

2011.02.03  
講師 飯箸泰宏

# 1.自己紹介

・飯箸泰宏 64歳

- ・都立足立高校卒、ビートたけしと同級生
- ・東京大学理学部化学科卒
- ・東京大学理学部情報科学科研究生修了

- ・大卒後10年間は、化学専門の出版社の編集部員として勤務
- ・その後の30年間は、株式会社サイエンスハウスの代表取締役と  
教員の二足のわらじ

・大学講師 慶応義塾大学、明治大学(2010年度現在)  
(システム工学、情報システム論、情報コミュニケーション論、情報デザイン論、情報社会論)

- ・その地、(有)アンフィニイ(松戸中央自動車学校)社長、地域おこし、障害者  
自立支援など、ボランティア団体の役員など

# 2.民学コラボの歴史

## ★2005年度

「問題発見」の問題が発覚

## ★2006年度

民学コラボレーションで「問題発見」の問題を解決へ(民学コラボレーション1、お祭りサイト)

## ★2007年度

アンケートサイトに関心のある学生が登場し、意見が割れた。  
どんなテーマでも扱える会社をつくることにした。  
しかし、興味だけに任せれば業務肥大にいたる。  
これを防ぐために、テーマの選択と存廃の判断基準は「利益」とした。  
(民学コラボレーション2、気式会社起こせムーブメント)

## ★2008年度

経営実行のツールであるサイトの作成を進めた。  
経営実行にまでは手が届かなかった。  
(民学コラボレーション3、サイト構築)

## ★2009年度(前期)

(民学コラボレーション4-1、サイト点検)  
サイトの点検を進めて、経営実行を試行しようとした。サイトの点検は進んだが、経営実行は施行されなかった。

## ★2009年度(後期)

(民学コラボレーション4-2、つながりサイトと学園祭アンケート、かがり火との連携)  
経営に関心を持つ学生が激減した。「祭り」に対する嫌悪感が集中した。  
深く考えさせられている。

## ★2010年度

経営に関心を持つ学生がさらに減少した。「祭り」に対する嫌悪感は解消され、日本の祭りに回帰した。  
アンケート班の悪戦苦闘はみものだった。

# 2-1. 2005 年度 2005

★情報コミュニケーション学部一期生の問題発見ゼミがスタート。飯箸ゼミのスタートした。

★気づいた問題点

- ・「問題発見」だけが「分析」「解決」と切り離されていることに問題が生じていた。
- ・問題解決能力のないままでは問題発見ができない。
- ・実践に耐えるシステム開発技能を教える余裕がない。

# 2-2. 2006 年度

◎民学コラボレーション<sup>1</sup>

★「問題発見」の問題を解決へ

★テーマは、お祭りサイト

★問題解決能力は民間の力、学生は企画開発。

★実践に耐えるシステム開発技能をバイトで培う。

作業	学生	企業
企画	学習活動	負担なし
製造	アルバイト	製造コスト企業負担
アルバイト	学生	アルバイト代負担
実践学習	学生	指導教育
メリット	解決能力を確保できる	アイデアをいただく
システムの 著作権と所有権	保有しない	保有する

# 2-3. 2007 年度

◎民学コラボレーション<sub>2</sub>

- ★アンケートサイトに関心のある学生が登場し、意見が割れた。
- ★どんなテーマでも扱える会社をつくることにした。
- ★しかし、興味に任せるだけでは業務肥大にいたる。
- ★これを防ぐために、テーマの選択と存廃の判断基準は「利益」とした。

## 会社の設立

社名 気株式会社起こせムーブメント  
(愛称 オッコセイ)

## 事業目的

- ・アンケート依頼者からお金をもらう。
- ・お祭りサイトで、広告、グッズ販売で収益を狙う。

## 実績

- ・オッコセイのHP、アンケートテストサイト、お祭りテストサイトができた。  
アルバイトとして社内に残った学生が担当した。
- ・ゼミでの検証はできなかった。

# 2-4. 2008 年度

◎民学コラボレーション<sup>3</sup>

★テストサイトの検証を行った。

★本番サイトVer.0.1を作成した。

☆アンケートサイト 先輩が作ったものは、自分たちに修正ができなかった。  
→自分たちでつくることにした。

☆お祭りサイト 先輩が作ったものは、デザイナーさん抜きで作られたものなので、トップページがさびしくて魅力が乏しかった。  
→デザイナーさんをコラボ企業の負担で頼んだ。

→ついでに情報デザイン上の観点から、学生らは設計の大幅修正を行った。

☆オッコセイHP 先輩が作ったものは、無料サービスを利用したもので修正不能だった。

→新たにつくることにした。

# 2-4(補). 2008 年度

☆本番サイトVer.0.1(2008年度版)は、次の通り

○オッコセイサイト

<http://okosemovement.web.fc2.com/index.html>

○お祭りサイト

<http://omatsuri.preopen.jp/dev2/index.html>

(<http://www.tanomoshi.jp/omatsuri/index.php>)

- ・お祭りサイトの収益構造を広告収入に求めていたが、物販収入に求めるべきであるとの結論に達した。

○アンケートサイト

- ・「学食アンケート」の呼びかけの呼びかけ

[http://mixi.jp/view\\_bbs.pl?id=37593560&comm\\_id=158088](http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=37593560&comm_id=158088)

- ・「大学生の情報の取り扱い方についてアンケート」の呼びかけ

[http://mixi.jp/view\\_bbs.pl?id=37811993&comm\\_id=158088](http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=37811993&comm_id=158088)

# 2-5. 2009 年度前期

◎民学コラボレーション4-1

★本番サイトVer.0.1の検証を行った。

★改善点をまとめて、取り組める課題には取り組んだ。

## 飯箸ゼミで得られた実績

- 会社運営の**理想と現実**の実感  
他では経験できない会社経営
- 想像もできなかった**過酷なゼミ**  
華やかさと厳しさ、楽しさと大変さ
- 各グループでの**サイト進展**  
サイトを更新するという経験

## 飯箸ゼミに残された課題

- 各グループサイトの課題  
それぞれのサイトの更新・発展。  
会社としての「**社会貢献**」と「**お金儲け**」の実践。
- 会社運営の**マニュアル化**  
前期だけや一年だけでは会社が効率よく回転しない。  
次世代に繋げていくためにも一定の**ノウハウをまとめたもの**が必要である。  
  
今後はやはり**短い期間内**でどれだけ効率よく作業を進められるように工夫するかが「**オッコセイ**」の成長に繋がると思われる。

前期ゼミリーダー 中原純の発表資料から

# 2-6. 2009 年度後期

◎民学コラボレーション4-2

- ★「祭り」を超えて、つながりサイトに向かった。
- ★目標=解答数200を目指して明大祭アンケートを実施。
- ★雑誌「かがり火」とのコラボを目指した。

- ・「つながりサイト」は「孤独死」などの社会問題の告発にとどまった。
  - ・ホームページに主張を掲示した。
- ・明大祭アンケートで明大祭参加者の性向も見つかった。
  - ・「かがり火」とのコラボは不調だった。
- ・教師の意図に反したことをやり遂げたという満足感と自信が残った。

# 2-7. 2010 年度

◎民学コラボレーション<sup>5</sup>

- ★「お祭りサイト」の復活に向かった。
- ★失敗から学んだアンケート班の悪戦苦闘。
- ★オッコセイホームページの改善に向かった。

- ・全体的に旧故回帰の年だった。
- ・お祭りサイトで放置されていた懸案のバグが改修。先輩の奮起。
  - ・アンケート班の悪戦苦闘がみものである。
  - ・オッコセイHPは、トップ/社員/英語ページに挑戦した。
- ・反省: 各自の思い入れが全体に希薄だったかもしれない。

# 学生の発表に続く